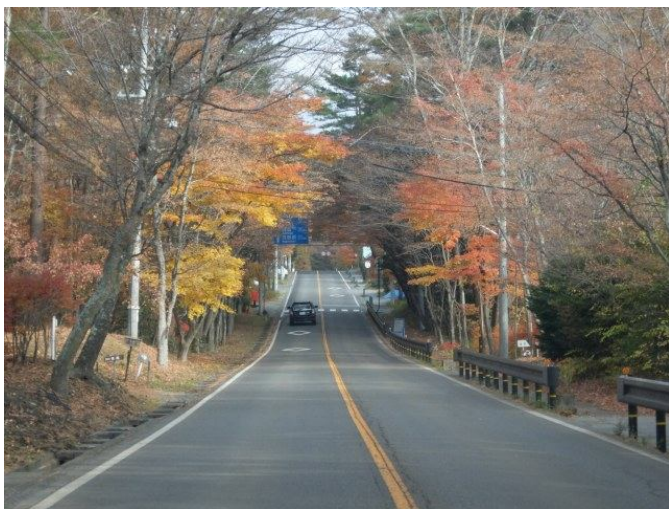


「北軽井沢のカラマツ(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

(1) 軽井沢から峰の茶屋へ

この連休は、久しぶりに浅間高原に滞在した。軽井沢から浅間高原への道は2つあるが、今回は国道146号線を上ることにした。この道は「日本ロマンチック街道」とも呼ばれている。たぶん、ロマンチックなのだろう。



軽井沢の標高は900mである。もちろん東京よりもずっと寒く、ちょうど今が紅葉の見ごろになっていた。国道沿いにもモミジの樹が多く、車窓からも目を楽しませてくれた。



国道146号線は、小浅間山(浅間山の寄生火山の一つ)の麓の「峰の茶屋」を通過する。ここがこの国道の最高標高地点で、1405mの水準点が設置されている。軽井沢より500mも高いので、すっかり紅葉は終わり、カラマツの葉もほぼ散っていた。

(2) 晩秋の北軽井沢

北軽井沢は、最高点(峠)から300mほど下った、標高1100m付近なので、軽井沢よりも平均気温が低く、秋もより一層深まっていた。



北軽井沢はかつて「天下の絶景檜の黄葉」と称されていた。コナラやミズナラの樹が多いのだ。「黄色」というよりも、赤褐色に近い色になり、遠くから見ると、実に見事である。そのナラの樹の色に、カラマツの黄色が加わり、見事な景観を創り出している。



特に私の山荘がある「北軽井沢栗平」は、カラマツの樹が非常に多い。かつてこのあたりは樹木がほとんどない草原だったのだが、戦後になって積極的にカラマツの植林をしたのである。

写真は県道58号線。この道をまっすぐ行くと、二度上峠を越えて、高崎市街に直接抜けられる。見えている山は「鷹繫山」(たかつなぎやま1431m)である。この山は新第三紀後期(約300万年前)の火山で、浅間山よりもずっと古い。麓は少し赤いが、山頂付近はすっかり葉が落ちて、冬枯れの木々になっているのがわかる。